

(総合的な学習) 指導(活動)案

【実践者】

氏名 富谷 唯士

学校名 音更町立下音更小学校

学年(人数) 第5学年(27名)

実施教科(領域) 総合的な学習

【関連するSDGs】(4・6・7・8・12)



【実施概要】

1. 単元名(活動名):

たくさん知ろう、世界のこと

2. 単元の目標(評価規準を意識して設定):

国際協力は、お互いの国の持つ強みを提供し合う相互扶助によって成り立つものということに気づく。

3. 単元計画(全4時間)

時	ねらい	学習活動	資料など
1	海外に親しみをもたせるとともに、キルギスの文化について興味をもたせる。	【アイスブレイク】 国名の文字の数でグループを作るアイスブレイクを行う。 【どこの国かな?写真クイズ】 日本・カンボジア・キルギス・アメリカの4カ国の世界遺産・食べ物・学校・人物などが写った写真を見てどこの国かをあてる。 【キルギスクイズ】 ボルソック・コクボル・石の広告・イシククル湖の写真を見せながらクイズ形式で文化を紹介していく。 【キルギス体験】 キルギスの商品に触れたり動画や画像を見たりしてキルギスの文化を体験する。 【振り返り】 キルギスの文化に触れて感じたことや考えたことをロイロノートに記入する。	・日本、カンボジア、キルギスで撮影した写真 ・キルギスで買った商品 ・写真や動画をQRコード化したもの
2	キルギスのSDGsの現状と日本のSDGsの現状を比較し、相互の良いところを合わせることで解決できそうな課題があることに気づく。	【SDGs神経衰弱】 SDGsについての神経衰弱型ワークに取り組む。 【キルギス?日本?どっちのカード】 自分で獲得したカードを写真や文章を頼りに、日本とキルギスで仕分ける。 【課題を解決するには…(個人思考)】 自分で獲得したカードを見比べて良いところと課題に分ける。 カードを比較したり経験から考えたりして、解決方法をふせんに書き込む。	・神経衰弱カード ・キルギスと日本のカードを仕分ける台紙 ・付箋(赤・青)

		【考えを交流しよう】 自分で考えた解決方法を班の人に伝えながら表にまとめる。 【違う班の考えを見に行こう】 違う班に行き自分にはなかった考えに☆印をつける。 【ふりかえり】 日本とキルギスの良さと課題を比較してみte気づいたことや・考えたことをロイロノートに記入する。	
3	前時で自分たちが考えた支援とキルギスの現状を比較し、望ましい支援のあり方について考える。	【前時のふりかえり】 「支援」とはどんなことをするものなのか前時で使用した付箋をもとに全体でまとめる。 【キルギスの就職先を見よう】 キルギス国内で稼げる職業が少ないことや学力が直結して就職先に関係していることを知る。 【キルギスの教育の現状を見よう】 キルギスでは若者が多く学校の数や職員が足りていないことを学ぶ。 【JICA 海外協力隊の川合さんが派遣されている学校を見てみよう】 動画を見てキルギスの都会の学校の様子を学ぶ。 【ふりかえり】 支援の仕方について考えたことや川合さんに聞いてみたいことをロイロノートに記入する。	・前時に子どもたちが記入した付箋。
4	JICA 海外協力隊の川合さんから取り組みについて話を聞き、単元について振り返る。	【JICA 海外協力隊の川合さんの取り組み】 オンラインで川合さんと繋ぎ、キルギスの学校へ行きどのような支援をしているのかを聞く。 【質問・ふりかえり】 班ごとに川合さんに質問をする。 この単元を通して自分たちがキルギスについてどんな思いや考えをもったかを川合さんに伝え、フィードバックを受ける。	

4. 本時の展開 (2/4) 本時のねらい： キルギスと日本の現状を理解し、相互の良いところを照らし合わせることで解決できるような課題があることに気づくことができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10 分)	T：これから先生が SDG s に関係ある写真を集めたので、SDG s 神経衰弱をします。 ●「SDG s 神経衰弱」の説明 写真や文をヒントにペアになると 思うカードを 2 枚選んでください。 裏には SDG s のマークが描かれて いるので同じだったらカードを獲得 できます。 同じマークでも「A」「B」と書かれ ているものがあるので注意してくだ さい。 ●SDG s 神経衰弱を行う。 C：？ パソコンの写真は同じだ！ 食べ物が A と B あって難しい。 発電所は同じかな？	神経衰弱に使う写真は、 日本やキルギスの特徴が現 れているものを選ぶ。 日本：火力発電所・電気 ストーブ・学校の蛇口・空 港のトイレ・和食の給食・ 給食の残食・ゴミ拾いの様 子・パソコンの壊れたもの キルギス：ダム・セント ラルヒーティング・24 番 学校の水道・ホテルのトイ レ・コチコルの学校給食・ 羊を料理している写真・道 のゴミ・コチコルの学校の パソコン	SDG s カード 6 セット 1 グループ 4 ～ 5 人
展開 (25 分)	●獲得したカードをキルギスと日本で分け てみましょう。 T：このカードには、どちらかが日本のカ ードでどちらかがキルギスのカードです。 T：自分が獲得したカードを日本とキルギ スで分けてみましょう。 C：ゴミ拾いをやっているのを見たことあ るよ！ 普段使っているパソコンだ！ ●【課題の解決方法を探そう】(個人思 考) T：ペアのどちらかが課題でどちらかが良 いところになっています。 T：好きなカードを選んで、カードを比べ たり自分の経験から考えたりして、課題の	様子を見ながら大体のグ ループが分けられたのを確 認してから答え合わせを行 う。 文章を読みお互いの良さ と課題を照らし合わせると いう視点でカードを分ける ように促す。	

まとめ (5分)	解決方法を付箋に書き込みましょう。 T：赤い付箋には、自分ができること 青い付箋には自分じゃできないことを書き 込みましょう。 C：ゴミを拾ってあげたらいいんじゃない かな？ キルギスが水力発電90%もあるならそ のやり方を教えてもらえないかな？ 日本人は食べ物をもダにしすぎてる！ ●【班の人に自分の考えを伝えよう】 自分で考えた解決方法を班の人に伝えな がら表にまとめる。 T：自分で選んだカードを表に置いてから 付箋を貼りましょう。 その時に声に出してから付箋を貼ってい きましょう。 【違う班の考えを見に行こう】 違う班に行き自分になかった考えに☆印 をつける。 T: 日本もキルギスもお互いに良いところと 課題があって協力することで、解決できる 課題がありますね。 ●振り返りを記入する T：日本とキルギスの良さと課題を比較し てみて気づいたことや・考えたことをロイ ロノートに記入しましょう。	子どもたちに見比べさせ ることで、解決できる文章 になっていることに気づか せる。 付箋を貼るときには、声に 出してから貼ることを伝え る。 「星がつかなかった児童は みんなも同じことを思っ ていたんだね」と認める言葉 がけをする。 楽しかった。良かった。 難しかった。で終わらない ように、「何が」「どうした か」具体的に書くように指 導する。	
5. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・日本とキルギスどちらかの課題に気づき、付箋に解決方法を書いている。 ・日本とキルギスの課題や良さに着目して自分の考えを書けている。（振り返り）			

【参考資料】

資料および外部との連携

- ・GlobalVoices
- ・三菱重工
- ・デロンギ
- ・産経ニュース
- ・国際連合広報センター
- ・JICA 海外協力隊 川合氏

カード等作成サイト

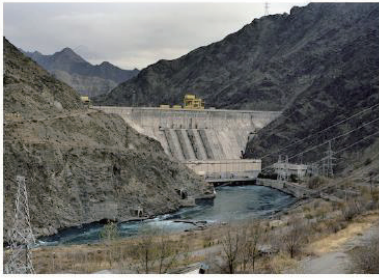
- ・Canva for Education

【自己評価】

苦勞した点	カードゲームの内容構成に時間がかかりました。理由としては、以下の2点です。 1 日本とキルギスのSDG sを裏表にして作成すること。 自分たちが撮影してきた写真やインターネットの写真を活用しています。日本とキルギスのカード作成のときに、どちらか一方が優れているとならないようにカードを作成することに時間がかかりました。 2 神経衰弱のゲーム性を維持しつつ、情報量を確保すること。 当初は、子どもたちに思考させるために情報量を増やし、その分ゲーム性が損なわれてしまっていた。また、内容も難しいカードが何点もあり、そこについて子どもに伝わりやすい文章を少ない文字で記入することに苦戦しました。
改善点	今回作成した指導案は、キルギスの現地で購入した物や JICA 海外協力隊の川合さんのリモートでの講義など海外研修に行った熱意を子どもたちに伝えるために作成しました。そのため汎用的には作られていないところが改善点になります。
成果が出た点	子どもの振り返りを見ると、「楽しかった・面白かった」という感想のほか、「お互いの強みや改善点がわかった」「キルギスに行ってみたい」「JICA 海外協力隊に行ってみたい」など、この単元で子どもたちの変容を見てとることができました。

学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	※児童の振り返りから抜粋 1 h ・国の旗を見たときは何の国かわからなかったけど、自分と激似の人がいてめっちゃめっちゃ面白かったし、キルギスはSDGsをしていて羊のお肉も食べてみたい。キルギスの新聞紙は読めなかったけど絵だけ見てみてもわからなかったです。キルギスのものを初めてみた。クイズも面白かった。自分も一回キルギスに行ってみたい。 2 h ・日本とキルギスには、どちらもいいところと悪いところがあり、支えあえたらどちらの国も環境に優しい国と生活しやすい国になると思う。解決方法を考えるのが楽しかった。 3 h ・外側だけを見て「支援」というのは一概に正しいとは言えないとわかった。でも努力を重ねたり、内側から少しずつ「支援」できていれば必ず実を結ぶと思う。 4 h ・キルギスの国旗は、太陽と移動式の家屋根を元に書かれている。青少年活動は、外国の子供と日本の子供を育てることで、外国では日本のことなどを教えたりして、日本では外国も事を教えたりしている。給食は、スープとパンしかないことに驚いた。
授業者による自由記述	SDGsを網羅できるように単元を計画したいと思い、作成しました。作成していくにつれて、全てを網羅するには、情報や時間、労力が足りないと思い現在の項目になりました。カードゲームで、授業を作りたいと思ったのは、子どもたちが自分たちでカードゲームを作ったり遊び道具として持ってきたりしていたので、カードゲームが子どもたちにとって身近だと思い選びました。 隣のクラスでプレ授業を行い、改善点などを事後研修会で、悩みを相談できました。カード作成においてゲーム性を保ちつつ考えやすい今のフォーマットを相談していただくなど自分にとって意義のあるものでした。アドバイザーの先生方やキルギスで活動中の協力隊の皆さん、そして現地研修メンバーの皆さんの協力によりこの教材を作り上げることができました。
次年度以降の取組予定	今回の研修を通して、様々な先生方の指導案や教材を見ることができました。次年度自分が担当する学年に内容を作り直して取り組もうと思いました。





水力発電で、環境に優しい。国の電力のおよそ9割になっている。



火力発電で、石油や天然ガスなどの燃料を一気にたくさん燃やす。



電気を使って部屋を暖める。
ガスなどの匂いは、しない。



街中の部屋を暖かくするために石炭を燃やす。煙突から出るけむりでのどがいたくなる…



浄水場があるので、のどが、かわいたときに水を飲むことができる。



のどがかわいてもじゃぐちから水を飲んではいけない。
お腹を壊してしまう…



下水処理場が整っているので使用後トイレトペーパーも流すことができる。



トイレトペーパーを流してはいけません。水がつまってしまう。



小さな頃からデジタル機器を使っていて、身体にあくえいきょうを与えているようだ…





毎日学校で食べることができる。
栄養バランスを考えて料理を作っている。



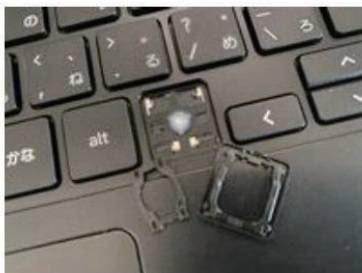
羊は捨てること無く一頭全て使っている。
肉は全て食べて、羊毛はじゅうたんなどに骨は遊び道具になっている



低学年のみ食べることができる。(一人一皿)
油をたくさん使って料理を作っている。



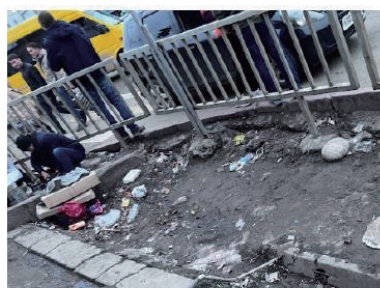
子どもたちは、1年間で1人約17.2kgもの食べ物を残しているらしい。
食品ロスはアジアで1番目に多い。



学校のパソコンのキーボードが壊れていた…
話を聞いたら叩いたり、らんぼうに扱ったりしたらしい。



もらった物を大切にしているので、メンテナンスは欠かさない。
このパソコンは2010年頃から使っている。



ゴミをポイ捨てる人が多いらしい。
景色がとても良いのにもったいない。

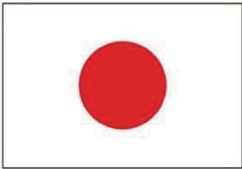


街の景観を守るために、地域のイベントやボランティアでゴミ拾いをしている。



地震によって水道管が壊れてしまって水が使えない人がたくさんいた。
水が出るようになるまでには、2ヶ月以上かかる

（キルギスと日本のカードを仕分ける台紙）

 -----		 -----

わたしの一枚

タイトル： キルギスの日常



写真を撮った場所： キルギス クズルトゥー村

キルギスの民家で見られた光景である。この写真にキルギスの特徴が詰まっており日本の子どもたちも興味を引きつけられた写真である。
『カルパック（キルギスの伝統的な帽子）をかぶる男の子が1人で牛たちを柵の中に戻していく。』現地の子どもにとっては、毎日の日課のようで、「戻るよ」と舌を鳴らして音を出しながら牛のお世話をしていた。

氏名： 富谷 唯士

学校名： 音更町立下音更小学校
